

# 婦人科腹腔鏡下手術をご検討中の患者様へ

## はじめに

腹腔鏡下手術は、患者様の手術による体の負担をできる限り少なくする手術として、様々な科で数多く実施されており、産婦人科でも近年急速に普及してきています。

## 腹腔鏡下手術とは？

腹腔鏡下手術とは、お腹に数か所の小さな穴（5mm-15mm）を開けて、炭酸ガスでお腹を膨らませてスペースを作り、そこからカメラや器具を入れて手術を行う方法です。（図1）



図1：腹腔鏡下手術のイメージ

## 腹腔鏡下手術の長所と短所

腹腔鏡下手術は、下記（図2）のような長所と短所があります。

図2：腹腔鏡下手術の長所と短所

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"><li>傷が小さく傷跡が目立ちにくい</li><li>術後の痛みが軽く、回復が早い</li><li>早期の社会復帰が可能</li><li>入院期間が短い</li><li>CCDカメラを用いるため、細かな手術が可能</li><li>開腹手術より術後の癒着<sup>注</sup>が少ない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>手術時間が開腹手術より長くなる</li><li>腹腔鏡下手術が安全に行えないと判断した場合、開腹手術に変更になる場合がある</li><li>皮下気腫など腹腔鏡下手術に特有の合併症が起こる可能性がある</li><li>手術操作に技術を必要とするため、施設によって手術適応となる基準が異なる</li></ul>

注）癒着とは本来は分離しているはずの臓器や組織が、外相や炎症のためくっつくことを言います。癒着は、腸閉塞（腸同士がくっつく）や、卵管閉塞（不妊の原因）などのリスクを招きます。

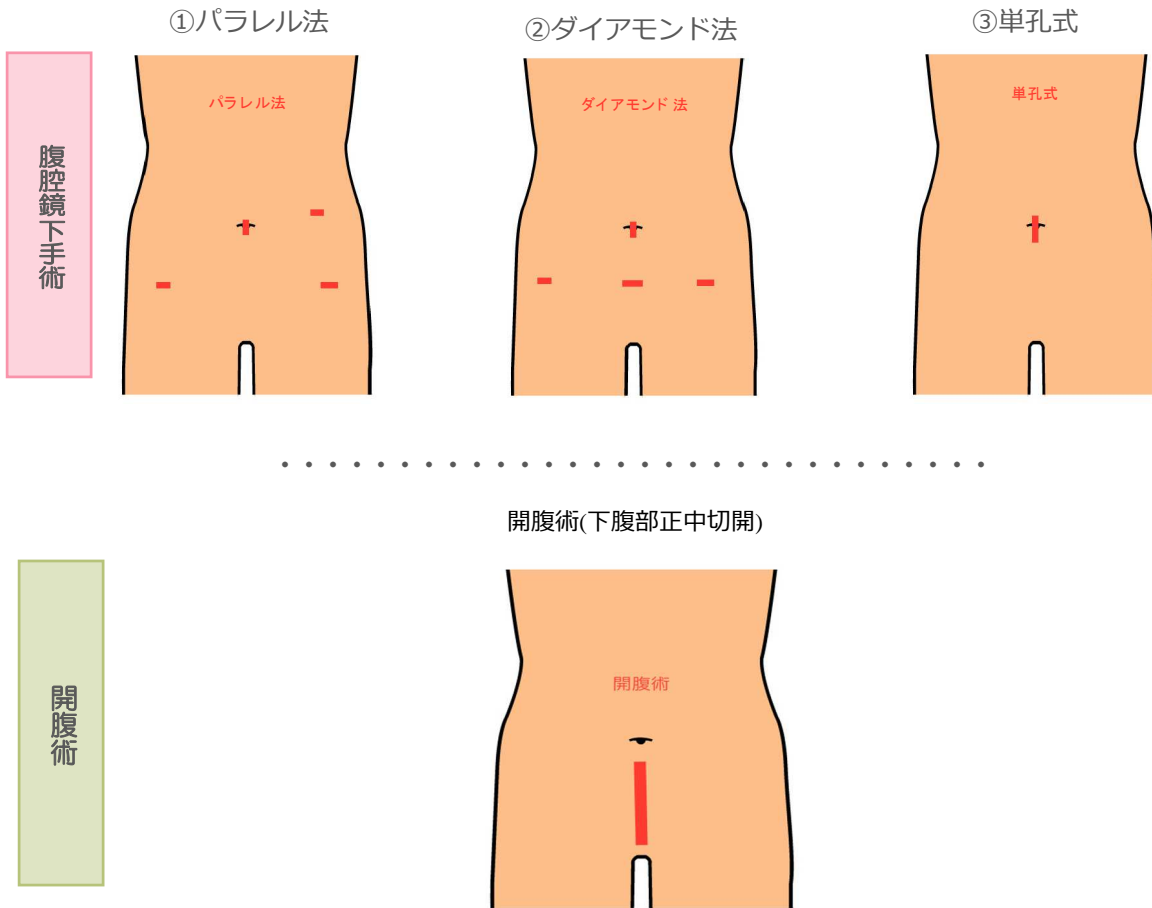
## 腹腔鏡下手術の手術方法

腹腔鏡下手術において、お腹に開ける穴（創）は、大きく分けて、

① パラレル法 ② ダイヤモンド法 ③ 単孔式 があります（図3）。

病気の種類や大きさ、癒着の程度によって、患者様に最も適した安全な方法を選択します。

図 3：皮膚切開創の種類（赤線が切開する部分です）



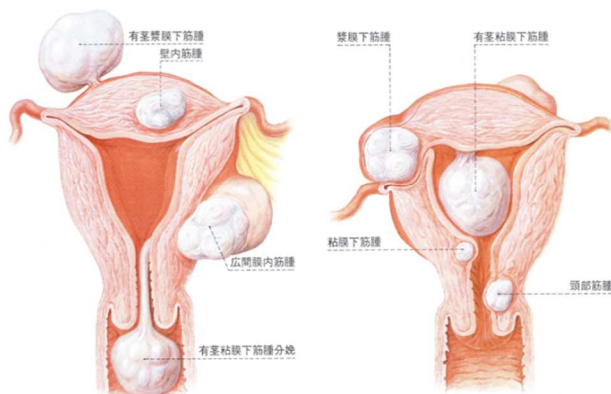
### 当科で手術可能な病気（適応疾患）

当科で行っている腹腔鏡下手術で手術可能な病気については、以下に示した通りです。

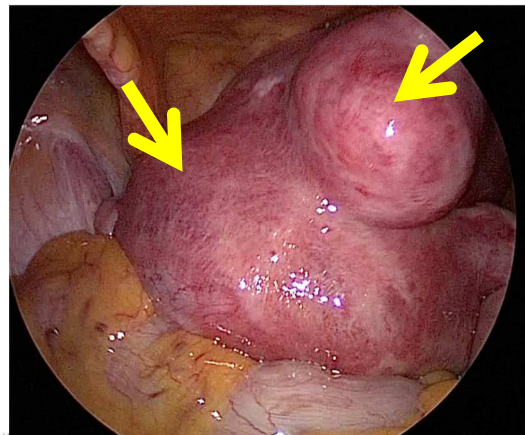
#### 子宮筋腫

筋腫の大きさ、個数、位置、悪性の有無などを総合的に判断して術式を決定します。

子宮を温存希望（体内に残したい）の場合は、子宮筋腫核出術、子宮の温存を希望されず切除適応となる場合は子宮全摘出術を施行します。



子宮筋腫のイメージ

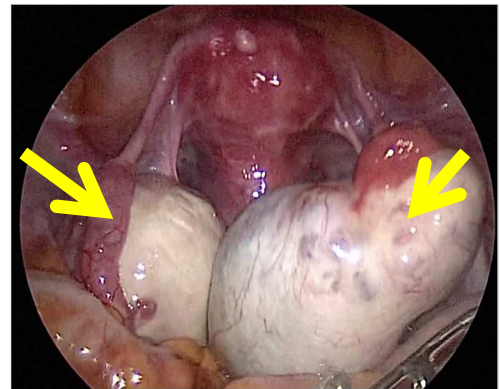


腹腔鏡で見た子宮筋腫

## 卵巣良性腫瘍

腫瘍の大きさ、年齢、今後の妊娠希望の有無などを考慮し、術式を決定します。

正常卵巣を温存する卵巣腫瘍摘出術、正常卵巣/卵管ごと摘出する付属器切除術があります。

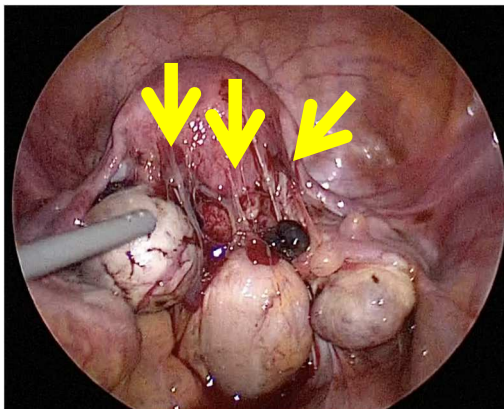


腹腔鏡で見た両側卵巣嚢腫

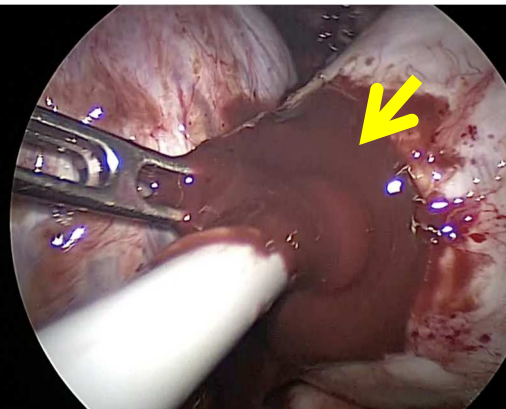
## 子宮内膜症

子宮内膜症は、卵巣ホルモンであるエストロゲンが病気の進行に関与するため、生殖年齢女性に発症し、月経痛・月経以外の下腹部痛・性交痛・排便痛・過多月経・不妊など様々な症状を引き起こします。

腹腔鏡下手術では、子宮内膜症病変を除去する手術を行います。病変が卵巣にある場合（チョコレート嚢腫）は、卵巣嚢腫摘出や付属器切除（卵巣・卵管切除）を行います。



腹腔鏡で見た子宮内膜症病変の様子



腹腔鏡で見た卵巣チョコレート嚢腫

## 不妊症

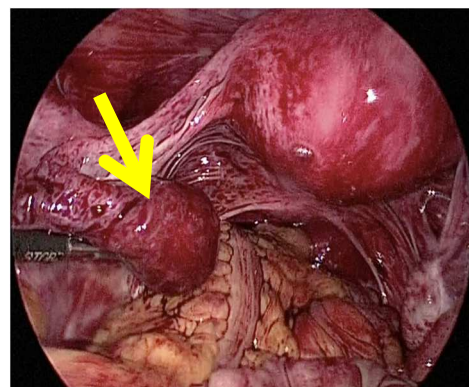
外来検査で、原因不明で長期の不妊症の場合、卵管周囲に癒着が疑われる場合、子宮内膜症による腹腔内癒着が疑われる場合、多嚢胞性卵巣症候群で排卵障害のある場合などに、腹腔鏡下手術で、腹腔内の観察・癒着剥離などの必要な手術を行います。

## 卵巣出血

緊急手術になる場合が多いですが、可能な限り腹腔鏡下手術で対応しています。止血のため、卵巣止血術、卵巣腫瘍摘出術などを行います。

## 異所性妊娠（子宮外妊娠）

卵管妊娠の場合は、卵管切除や卵管線状切開術を行います。緊急時も可能な限り腹腔鏡下手術で対応します。



腹腔鏡で見た左卵管妊娠

## 当院で腹腔鏡下手術を行った場合の入院期間

当院で腹腔鏡手術を行った場合の入院スケジュールは以下に示した通りです（図4）。

入院期間は入院日・手術日を含めて約6日間となります。

当科は全個室病棟ですので、プライバシーも守られ、手術前後はゆっくりとお過ごしいただけます。

図4 当科の腹腔鏡下手術のスケジュール

1日目	2日目	3日目	5日目	6日目
入院	手術 (全身麻酔)	術後1日目 食事 歩行	術後3日目 退院診察	術後4日目 退院
				
		6日間		

## 当院での腹腔鏡下手術をご検討中の患者様へ

婦人科の症状や病気でお悩みの方、腹腔鏡下手術についてお悩み中の方は、まずは当院の婦人科外来を受診してください。腹腔鏡下手術が可能かどうかを診察し、患者様にとって最も良い方法をご提案させていただきます。

他院で開腹手術と言われた症例でも腹腔鏡下手術が実施可能な場合もありますので、ぜひ一度ご相談ください。

当院当科では、体に負担の少ない腹腔鏡下手術を積極的に行って参ります。

何かご不明な点がございましたら、遠慮なく外来担当医までご相談ください。

北九州総合病院 産婦人科スタッフ一同